

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

別添様式2

公表日：2023年7月19日

事業所名：リハ・リハキッズPowers高倉台

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	・適宜、利用児に合わせてパーソナルスペースが確保できるように努めている ・1人1人マットやバスタオルなどで個別のスペースを確保している	はい：5名 どちらともいえない：2名(寝たきりのこども達ばかりなので少し狭い感じがする)	室内では物品整理を徹底して遊ぶスペースを確保し、屋外にも出る機会をもつなどして、少しでも子供たちがのびのびと過ごせるように配慮する。
	2 職員の適切な配置	・定員5名に対して管理者兼児発管、看護師、セラピスト、児童指導員を配置	はい：6名 どちらともいえない：1名	
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	・補助便座等必要に応じて使用する ・フルフラット等バリアフリーになっている	はい：6名 どちらともいえない：1名	
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	・使用物品の消毒又は、ワンケアに対して手指消毒や手洗いを実施している ・使用した玩具は適宜消毒を行っている	はい：6名 どちらともいえない：1名	
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	・定期的に職員とご利用児の情報共有や資料の改正を行っている		
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	・外部評価は実施していないが、社内で他部署や他事業所のスタッフによる評価を実施し、書類や運営上の不備が無いように努めている。		
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	・全職種が集まるスタッフMTGの中での研修や、専門職種間での研修機会を作っている。		
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	・半年に一回保護者との面談の機会を設け、それを基にスタッフで共有した上での計画書作成に取り組んでいる		
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	・集団活動は感染上、なかなか難しい状況ではあるが、出来るだけ直接接触が無いように実施している	はい：7名	
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	・計画書には支援内容を具体的に記載している		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	・半年に一回作成している計画書の支援内容を更に細分化させ、日々の支援活動を利用児毎にその日の段取り出目標や実施する支援内容を共有している	はい:7名	
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	・児発管が作成した計画書に沿って、保育士/児童指導員を中心とした活動プランを計画し、看護師/機能訓練士と共にチーム全体でプログラム作成を行っている		
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	・平日は来所が遅いため出来るだけおやつ、排泄などを行いながら個別活動を中心に行っている ・休日や長期休暇などは普段行えない活動をメインに買い物などを取り入れて、集団活動を行っている	保護者へのプログラムが分からない、いいえが大半で、はいの回答は2名のみ	
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	・季節ごとの製作や、集団活動の内容を考え支援を行っている ・個別支援については子供の成長に合わせて支援を行っている		
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	・毎日利用児毎にタイムスケジュールを組み担当制で確認しながら行っている		
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	・その日のカルテを基に情報共有している。またその日に共有しないといけない出来事があれば適宜実施している ・職員間での情報共有ができるよう、職員間で連絡ノートを活用している。		
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	・日々の実施記録はスタッフ間で確認し合いながら記入、情報共有をし、漏れがないかの最終確認も行っている		
11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	モニタリング、計画書は基本半年に一回、必要であれば職員間でそれ以上の頻度で実施			

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	サービス担当者会議は実際行う機会は少ないが、必要時は保育園や学校などと連携を図り情報共有している		
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	自社の訪問看護や学校とは特に密に関り、必要であれば管理者が訪問している		
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	主治医や医療関係は主に母親を介して情報共有を行うことが多く、直接的なやり取りは期間を決め訪問したりしている。嘱託医とは月1回は連携を図っている		
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	送迎時などに学校の担任と情報共有を常に行っているが、必要時は訪問も行っている		
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	昨年卒業された方も円滑に生活介護への移行が出来ている。 現在も必要に応じては他機関への情報提供は行っている。		
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	専門機関からの研修があれば職員に随時情報提供を行い参加を促している。また、神戸市の関係機関が集う会議にも定期的に参加し、連携を取れる体制を取っている。		
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	他機関と連携を図るために相談事業所が入っている児童などは保育所などに訪問し情報共有を行っているが、障害のない子どもとの活動機会はあまりもてていない。	障がいの無い子供とのかかわりが無い分らない3名 いいえ:3名	屋外での活動や、ご兄弟との関り等で、少しでも障害のないお子様との関りがもてるような機会をもつ。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	3月に卒業された方の卒業式を事業所内で行った際にの関係機関も招待した。		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時に負担額、支援内容について説明をし、適宜変更があれば、変更事項も伝えている。		
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	計画書は原則家族に見せながら説明を行っている	はい:5名 わからない:1名 いいえ:1名	
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	送迎時、面談、電話、ラインなどで必要に応じ自宅で出来る支援や、ご自宅で過ごす際の注意点(遊び方や介助方法等)をお伝えしている。	いいえ、分からない7名 はい2名	引き続き相談支援を行う中で保護者の方へお子様への対応に関する助言などを行いながら、ご希望に応じて外部機関の研修なども紹介する。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	日頃から保護者に子どもの生活状況やお困りのことを聞きながら支援にあたっている。	はい5名 分からない2名	
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	上記の通り、保護者との会話の中では必要に応じて助言もしている	はい5名 分からない2名	
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	感染リスクを考慮して実施できていない。	いいえ3名 分からない4名	感染状況に応じた内容で積極的に企画する。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情相談窓口を設け、その説明を契約時にしており、苦情があればクレーム報告書などで内容などをスタッフ間で共有している		
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	自分からは発信、伝達が出来ない子供たちがほとんどなので、その日に合ったことや、本人の様子などを保護者へ送迎時や電話、LINEにてお伝えしている	はい7名	
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	季節ごとに法人内の「キッズ部門」として会報「パワーズ通信」を発行したりラインなどで利用児の様子を保護者へお伝えしている	いいえ3名 分からない4名	SNSやチラシ等をより積極的に活用していく。
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	書類管理方法や関係機関以外の人たちとの情報共有に関する注意点など、スタッフ間で研修も実施するなどして共有している	はい5名 分からない1名 どちらともいえない1名	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	緊急対応マニュアル、感染症対応マニュアルは策定し、スタッフ間での共有もしているが、保護者への周知がまだまだ不十分に感じる。	はい1名 分らない6名	マニュアルの内容や策定している事実等を積極的に保護者へお伝えしていく。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	年2回災害研修は実施している。	はい1名 分らない6名	災害研修の内容や実施状況等を保護者へもお伝えしていく。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	年2回虐待防止研修を実施している。		
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	現時点では明らかな該当する児童はいないが、対応が適切かどうかは定期的に身体拘束訂正委員会にて協議している		
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	医師の指示書は貰っていないが、保護者には適宜アレルギーの有無や内容を確認したうえで、食事やおやつを提供している		
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハットがあればその都度報告書を作成しスタッフ間で共有、今後の対策などを検討し周知を行っている		